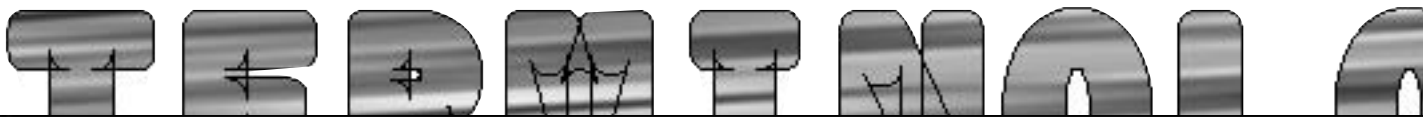


## TERMINOLOGY of Internet



### ■VRML【バイアールエムエル】

Virtual Reality Modeling Language (バーチャルリアリティモデリング言語) の略。3次元の世界を仮想的にインターネット上で記述するために開発された言語。現在WWWサーバーに格納する文書はHTMLで作成しているが、広い意味ではその3次元バージョンにあたる。HTMLと同じように、リンク情報としてURLを埋め込み、ハイパーリンクにすることができる。

応用例としては、電子美術館のようなものが考えられる。VRMLで作成した美術館では、現実に館内を巡っているような感覚が味わえ、また気に入った作品をクリックして、他のページまたはサーバーにジャンプし、作品や作家について詳しく知るといった仕掛けにすることもできる。当初、VRMLはVirtual Reality Markup Languageの略語であるとされていたが、モデリング(立体模型)を記述する言語であることから現在の解釈に落ちついている。

### ■FTP【エフティーピー】

File Transfer Protocol (ファイル転送プロトコル) の略。ホストとホストとの間でファイル転送を行うためのプロトコル(通信規約)である。このほかに、クライアント側のFTPツール、FTPツールを使ってアクセスするFTPサイトの意味で使われていることもある。UNIXではコマンド名としても使われており、また「FTPする」といったようにFTP関連の動作を表していることもあり、解釈が拡大されている。すでに一般名詞になったものと解釈し、小文字でftpと表記していることもある。

### ■anonymous FTP【アノニマスエフティーピー】

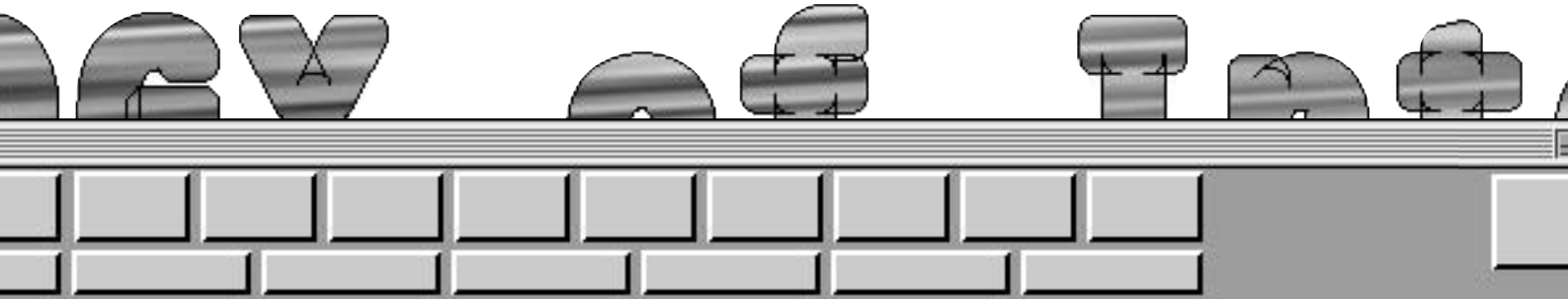
ログイン時のユーザー認証に、ユーザー識別番号やパスワードを必要とせず、FTPサイトにアクセスする方法のこと。通常、「anonymous」というユーザー名を使ってログインできるようにしていることから、この名称が使われている。インターネットには膨大なパブリックドメインソフトウェアやデータが存在しているが、それを不特定多数に(誰にも)配布する方法として考えられた。「guest」という名前でもログインするところもある。anonymousが「匿名」と訳されているため、相手側に知られずに済むと思いがちであるが、システムにログインする以上チェックを受けていることに変わりはない。「誰でも利用できるFTPサイト」という程度に考えておいたほうがよい。ただし、ログイン時にパスワードとして自分のメールアドレスを入力し、サーバーの管理者のために便宜をはかるのが慣習となっている。anonymous FTPをアーカイブサイトの意味に使っている場合もある。

### ■RealAudio【リアルオーディオ】

インターネットでオーディオ・オン・デマンドを実現する米Progressive Networks社が開発した技術。同社の登録商標でもある。ビデオ・オン・デマンドと同じように、好きなときに目的の音声サーバーから取り出すことができる。今までインターネット上に音声を流すことはできたが、いったんファイルをすべてダウンロードしたあとで再生する方式であったため再生が始まるまで長時間かかり、内容が目的に沿っているかどうかはすぐにはわからないという欠点があった。RealAudioでは、音質をある程度犠牲にして低速でも聞けるようにしており、その名称が示すようにデータを受信しながら再生できる。使い方によっては、会議などでのスピーチをサーバーで提供することもできるし、ラジオ放送局のようなものも開設できる。14.4 Kbps以上のモデムとサウンドカードがあれば聴くことができるので、いわゆるマルチメディアパソコンであればRealAudioを利用することができる。

今回はインターネットツールと言われるものを取り上げました。ツールの1つであるvatについてご存じの方は情報をお寄せください。

E-mail to : [ip-term@impress.co.jp](mailto:ip-term@impress.co.jp)



### ■CU-SeeMe【シーユーシーミー】

米コーネル大学（Cornell University）が全米科学財団の助成を受けて開発した、パソコン用のテレビ会議システム（video conference system）。ビデオを利用したチャットシステムの一つであり、リフレクター（reflector; 反射板）と呼ばれるサーバーにログインして、そこに接続している参加者と会話を行う。画面に表示できるのは8人までにかぎられるが、ビデオキャプチャーボードやビデオカメラ、サウンドカードを用意するだけで利用できる。キーボードからメッセージを入力することもできるので、サウンドカードを実装していなくてもコミュニケーションがとれる。通常の設定で利用できるとは言え、動画像を取り扱うことから、CU-SeeMeを使うとトラフィックが増加し、同じドメイン内の通信を阻害することがある。ISDNの38.4 Kbpsのレベルでは画像を完全に転送することはできないが、CU-SeeMeを楽しむことはできる。CUはCornell Universityの略。

### ■NSPIXP【エヌエスピーアイエックスピー】

NSPIXPは、プロジェクト名（Network Service Provider Internet eXchange Project；ネットワークサービスプロバイダーインターネット交換プロジェクト）と接続ポイント（Network Service Provider Internet Crossing Point；ネットワークサービスプロバイダーインターネット交換ポイント）の両方の略語として使われている。混同をなくすためにプロジェクト内では、交換ポイントを指すときはNSPIXP-1と表記している（この略語の解説にゆれがありましたので訂正します。用語から言えば、NSPIXP-2という2つめの交換ポイントが設置される可能性があることとなります）。

.....Dohi Seijiさんのご指摘により再掲載。

### ■アーカイブサイト【archive site】

ファイルの格納だけを専門に行うサイトのことであり、FTPサイトなどがこれにあたる。

### ■Internet Phone【インターネットフォン】

インターネット上で音声通信を実現する米VocalTec社が開発したソフトウェア。同社の登録商標でもある。半二重用と全二重用の2つのバージョンがあり、半二重では同時に相互に通話することはできず、無線通信のような使い方になる。全二重にすることで電話と同等の会話ができるようになる。電話では、ダイヤルと呼び出し音が鳴り、相手を受話器をとることで会話が始まるが、Internet Phoneでは、いったんInternet Phoneサーバーにログインし、すでにそこに接続しているユーザーの誰かを選ぶことによって会話を始める。電話というよりも音声によるチャットシステムであると考えたほうがわかりやすい（やはりと言うか、アダルト的なトピックもある）。インターネットは世界中に広がっているので長距離電話や国際電話の代わりとしても使えるが、この場合はある特定のトピックを互いに示し合わせておくことで第三者からの割り込みを防ぎ、プライベートな会話ができるようになっている。現在、Internet Phoneサーバーは世界中に十数カ所設置され、電話局の交換機の役割を果たしている。Internet Phoneが推奨するハードウェアは、半二重では486/33 MHz以上と標準のサウンドカード1枚、全二重では486/50 MHz以上と標準のサウンドカード2枚（または全二重用のサウンドカード1枚）となっている。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)